

第3回

別府市立図書館及び別府市美術館整備 基本構想検討委員会



平成28年12月19日(月)
14:00~
1階 レセプションホール

別府市教育委員会

第 2 回

まちから考える図書館・美術館づくりワークショップ

実施報告書

第2回市民ワークショップ実施報告

1. 日時

2016年12月18日(日) 13:00~16:30

2. 天候

晴れのち曇 最高気温 12℃/最低気温 5℃

3. 場所

オリエンテーション・協議・発表：別府市役所レセプションルーム

まち歩き：別府市役所・別府公園周辺エリア/別府駅・中心市街地エリア

4. 参加人数

申込参加者 25名(内、大学生6名、高校生4名、中学生1名)

その他、委員参加者 8名

5. テーマ

全体) 別府のまちから考える わたしたちの図書館・美術館づくりワークショップ

第2回) まちと歴史・芸術・文化と美術館

6. プログラム実施内容

第1部：13:00-13:50 オリエンテーション

- 1) 別府市教育委員会生涯学習課の挨拶
- 2) 第1回「まちから考える わたしたちの図書館・美術館づくり：まちと本と図書館」の振り返り
- 3) オリエンテーション「本日のプログラムについて」
- 4) 注意事項の説明
- 5) グループ単位で歩くエリアを確認して出発



第2回目となった今回は、前回参加した方々をベースに新たな参加者を加え、より多様な市民のみなさまの参加のもと開催された。

また、委員の参加も前回からさらに増え8名となり、部分的ではあるが、市民参加のワークショップと検討委員会の連携につなげることができたと思われる。

冒頭、生涯学習課からこのワークショップの意義をあらためて説明した上で、第1回「まちから考える わたしたちの図書館・美術館づくり：まちと本と図書館」の振り返りを行い、本ワークショップが市民主体による新しい図書館・美術館づくりの一步であることを再確認した。

第2部：14:00-15:30 まち歩き

- 1) グループごとに2つのエリア（別府市役所・別府公園周辺エリア／別府駅・中心市街地エリア）にわかれてまち歩きを行う
- 2) 歩きながら「まちと歴史・芸術・文化と美術館」について気づいたことを、話し合いながら、写真に撮ったり、メモやスケッチに残していく



前回とはうってかわり晴天に恵まれ、大変気持ちよくまち歩きを行うことができた。やはり別府は歩いて楽しいまちであることを多くの参加者が感じたのではないかな。

前回参加したメンバーが引っ張るような形で、自分たちのまちをあらためて発見しようと、まちにあるアートや歴史的建物等を見つけ出し、その背景について考え、立ち止まり、世代を超えてディスカッションする様子があちらこちらで見られた。

別府のまちの中には、歴史的な文化資源だけでなく、アートイベントや若い世代の活動による新しい文化資源も散らばっているということが、感覚でなく実態として市民の間で共有できたことは大きな成果だったと思う。

第3部：15:45-16:30 地図に記録する

- 1) 「まちと歴史・芸術・文化と美術館」について見てきたこと気づいたことを、地図に記録していく
- 2) 地図を編集しながらチーム内で話し合い気づいたことを共有する
- 3) グループごとに中間報告として発表する



初回時、中学生や高校生、大学生といった若い世代の想像力の豊かさに驚かされたが、1度ワークショップを経験して自信をつかんだ彼ら彼女らが、さらに積極的に発言をしていた。それを受けた大人の側も、経験から積み上げた知恵を若い世代に惜しみなく授けるような形で、世代を超えたコミュニケーションはより深まったと思われる。

全体の気づきの傾向としては、「ごちゃごちゃ感」「混じり合う」「多様性」といった別府市の特徴をあらためて感じた上で、「まちに広がる」「回遊性」「既存の利活用」といった、開けた美術館への想像を膨らませていく方向が感じられた。

これは前回「まちと本と図書館」の時にも感じられた方向性と重なるものであった。別府らしさがこういったところにも現れているのではないか。

7. 第2回の成果：中間発表

グループA：別府市役所・別府公園周辺エリア

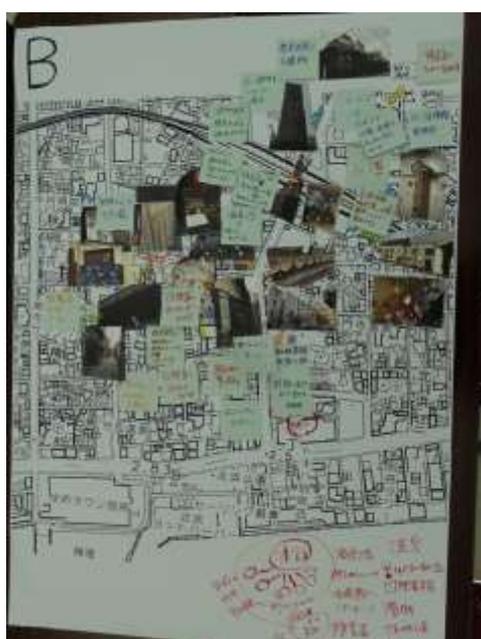


「回遊できる美術館」

■気づきのポイント

- ・ 別府公園の中に美術館を。歩いている中でアートを見たい
- ・ 別府の文化回遊ゾーンをつくる
- ・ 別府駅から歩いてみたい。もっと広いエリアを感じたい
- ・ その土地の歴史を紹介し、博物館との融合を
- ・ 情報を知る機会を、発信できる場所を
- ・ 健康とアート、ランとアート、温泉とアート、景観とアート
- ・ 今ある施設をリノベーションして活用できるのでは
- ・ 公共交通の便があまりよくない、他

グループB：別府駅・中心市街地エリア



「温泉やアーケードにアートを」

■気づきのポイント

- ・ 路地の素敵さ
- ・ 商店街の利用されていない店舗の活用
- ・ 地元の人と観光客と一緒に楽しめる街に
- ・ 温泉を使ったオブジェ
- ・ 歴史を感じる建物。古い建物を活かした展示
- ・ 別府らしい竹垣
- ・ 障害者が楽しめる美術館
- ・ 避難場所までの案内
- ・ ユニバーサルデザイン、他

グループC：別府市役所・別府公園周辺エリア

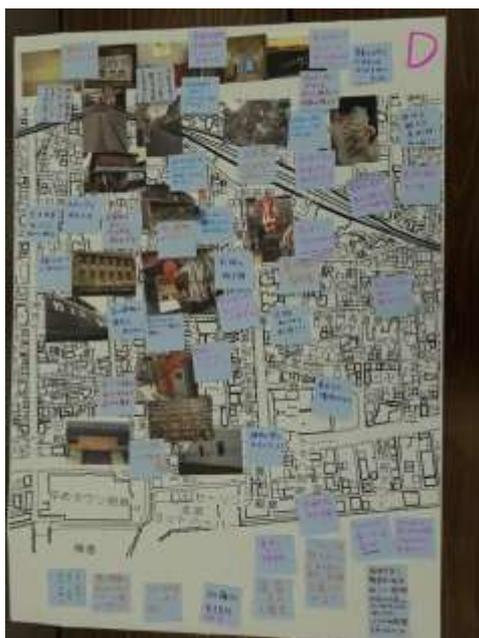


「巻き込み型の美術館」

■気づきのポイント

- ・ 参加型、進化型、巻き込み型
- ・ 開放感あふれる。リフレッシュできる空間
- ・ 情報発展の拠点
- ・ 誰でも展示できる交流スペース
- ・ 花のまち・別府、花時計の復活
- ・ 分館的まちなかミュージアム。サテライト
- ・ 人材育成につながる活動。まちの中の文化財を大切に
- ・ 施設内のどこでもつながる Wi-Fi、他

グループD：別府駅・中心市街地エリア



「世代を超えて混じり合う美術館」

■気づきのポイント

- ・ ごちゃごちゃ感を残したままのまち
- ・ 子どもが楽しむ基地
- ・ 子どもにも伝えていくべき歴史
- ・ クオリティの高いアートも必要
- ・ 知っている人が知らない人に教える機会
- ・ 温泉文化と歴史
- ・ お風呂の正しい入り方を教える
- ・ 別府のエンターテイメント
- ・ 美術館とお酒、他

2 図書館建築及び運営コストについて

【追 記】

【追記】

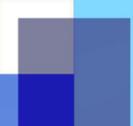
■ 大分県別府市

人口：約 12 万 基幹産業：観光・別府八湯温泉等

別府市立図書館	
開館時間	火～金：9 時～19 時 土日祝日：9 時～17 時
年間利用状況	年間利用人数：74,644 人（平成 26 年度） 貸出冊数：292,432 冊（平成 26 年度）
蔵書冊数	203,566 冊（平成 26 年度）
図書館費	約 3 千 1 百万円
資料費	1 千 6 百万円（図書の他に、新聞・雑誌も含む）

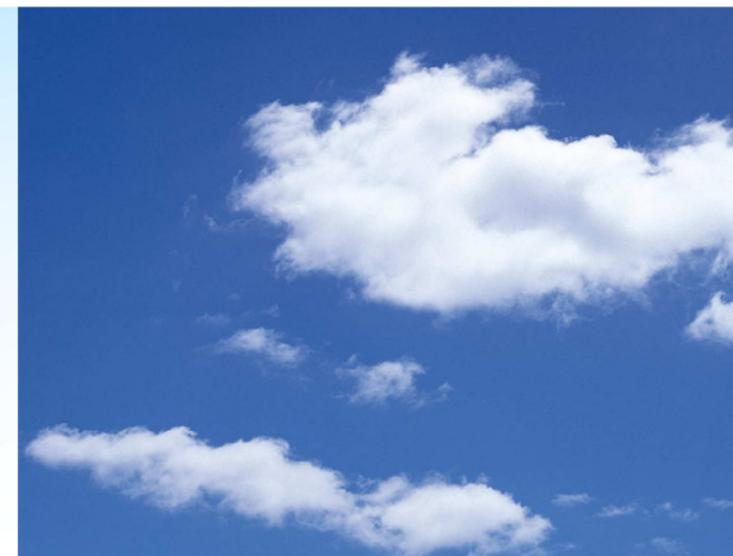
所在地	大分県別府市千代町 1 番 8 号 南部振興開発ビル 2 階
竣工年月日	1987 年 7 月 1 日 ※竣工に伴い旧別府市公会堂地下室（現在の中央公民館）から現在地に移転。※図書館自体の開館は 1922 年 6 月。
設計	不明
敷地面積	1,000.00 m ²
延床面積	1,353.23 m ²
規模	地上 4 階建（図書館部分は 2 階のみ）
工事期間	不明
総事業費	不明

移動図書館車 ロータリー号	11 コース 30 ヶ所を毎月 1 回間隔で巡回
------------------	--------------------------



西町南地区の公益施設整備に関する基本構想

概要版



平成 22 年 11 月

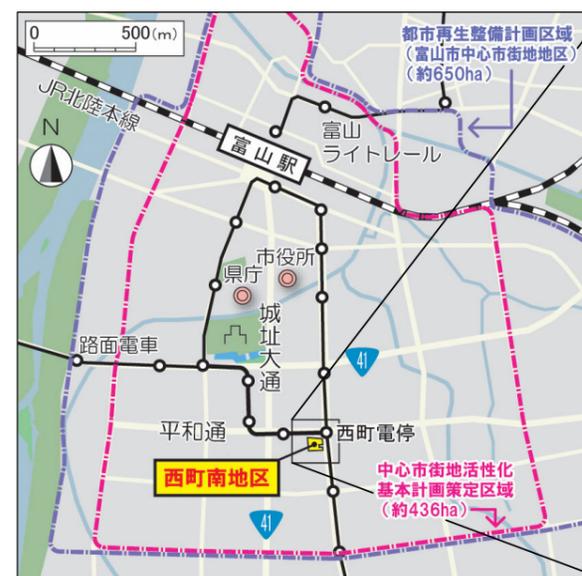
富 山 市

1 西町南地区における市街地再開発事業の概要

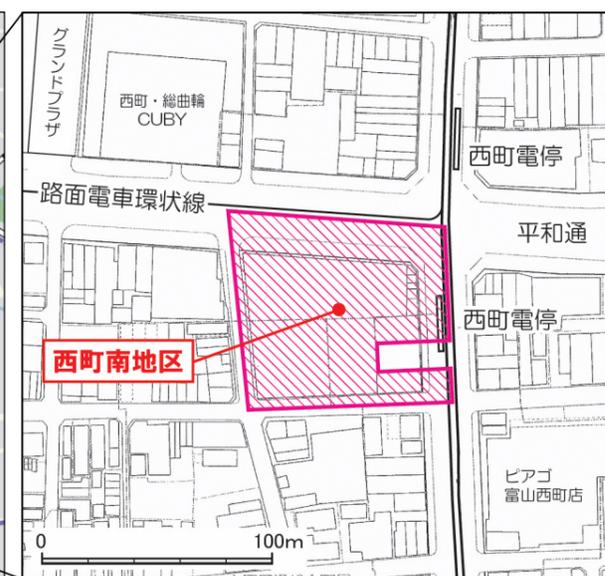
(1) 事業の概要

地区名	富山市西町南地区
事業手法	第一種市街地再開発事業（予定）
施行者	西町南地区市街地再開発組合（予定）
事業年度	平成22年～26年度（予定）
施行地区	富山市上本町、西町、太田口通り一丁目の各地内及び周辺公共施設（道路）
地区面積	約0.7ha
地域地区	商業地域（建蔽率80%・容積率600%） 防火地域
既定計画	中心市街地活性化基本計画区域 都市再生整備計画（富山市中心市街地地区）区域

(2) 地区の位置



(3) 区域図



(4) 施設建築物の概要（予定）

構造・規模	鉄筋コンクリート造・地上9階
延床面積	約27,000㎡
主要用途	業務施設、公益施設、駐車場

2 ガラス美術館・図書館本館・公文書館整備の経緯

(1) 各施設の整備の経緯

ガラス美術館

本市では、ガラス工芸を対象とした施策をまちづくりの一つの柱として位置づけ、富山ガラス造形研究所・富山ガラス工房の開設や、関連する取組により、20年来、現代ガラス造形作家の育成や支援、ガラス文化の振興に努めてきた。

こうした中、その普及や交流に資する施設として美術館の整備をめざすことになり、平成13年3月に基本構想が策定された。その後、設置場所の候補地等についての検討を進め、平成21年3月には、ガラス美術館の整備を含む「ガラスの街づくりプラン」を作成した。

図書館本館

図書館本館は「貸出」「レファレンスサービス」「児童サービス」を柱とした図書館サービスを展開している。

現在の図書館本館は建設後40年が経過し、老朽化が進んでおり、時代に適応できる図書館が望まれている。

そこで、これまでの調査・研究を踏まえ、平成22年4月に図書館整備のための検討委員会を設置し、平成22年6月には「図書館本館整備基本方針」を策定した。

公文書館

平成20年2月に「公文書館基本計画」を策定した。その後、各課から歴史的資料として重要な価値を有する公文書を受け入れ、整理し、平成22年4月から婦中総合行政センター内において、暫定的に開館している。

(2) 現施設及び関連施設の位置図

富山ガラス造形研究所
富山ガラス工房



公文書館（現施設）
（婦中総合行政センター4階）



図書館本館
（現施設）



3 公益施設整備の課題と方向性

(1) ガラス美術館・図書館本館・公文書館の整備にあたっての課題

ガラス美術館

**関連施設・事業との連携による
ガラス文化の普及・交流の推進**

本市の「ガラスの街づくり」の推進に向けて、ガラス造形研究所・ガラス工房で展開する「作家育成・創作支援・産業化推進」や、関連事業との連携がポイントとなる。その中で、「ガラス芸術文化の普及と交流」に資する現代ガラスの美術館として、専門性・象徴性を追求することが求められる。



図書館本館

**情報拠点としての機能の強化及び
快適な図書館づくり**

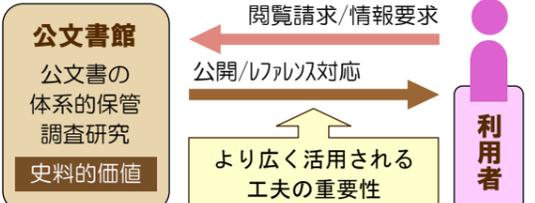
高度情報社会において多様化する市民ニーズを踏まえ、情報資源の集積力及び対応力を強化することが求められる。そのためには、誰もが快適に利用できる図書館づくりを基本とするとともに、関連機関やボランティア団体等との連携・協力も重要となる。



公文書館

**公文書の有効活用の促進と
施設整備の方向性**

公文書館では、富山市の歴史の一端を知ることができる公文書が保管され、これらの公文書が、市民共有の知的資源として有効活用されることが求められる。整備については、図書館との併設が考えられるが、市街地再開発事業の計画が具体化する中で設置が困難となる可能性がある。



(3) 公益施設の方向性

まちなかの西町南地区において
市民が集い、憩える
「文化・情報交流拠点」を
複合施設として整備する

公益施設を複合的に整備することで、その相乗効果によって、まちの賑わいや活性化に寄与する。

都市機能が高まることで、魅力と活力を創出する富山市の「顔」にふさわしい中心市街地の形成に貢献する。

(2) 富山市中心市街地・中心商業地区のまちづくりの状況

中心市街地活性化の基本方針

本市では、都市機能が集積した徒歩圏域である中心市街地で、コンパクトなまちづくりにおける拠点づくりを重点的に行い、その波及効果によって市全体の活力向上が図られることをめざしている。



市内電車環状線 (H21.12 開業)

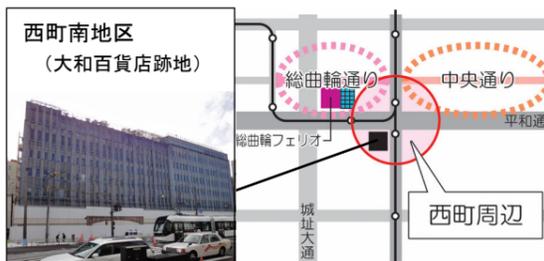
中心商業地区の都市再生の状況

中心商業地区（総曲輪通り・西町・中央通り商店街周辺）では、中心市街地活性化基本計画に基づき、市街地再開発事業等による「賑わい拠点の創出」や「まちなか居住の推進」、市内軌道環状線化による「公共交通利便性の向上」など、様々な都市再生の取組が進められている。



西町周辺及び西町南地区の状況

西町周辺は、かつて市内で最も人の往来で賑わう繁華街であり、大和百貨店が立地した西町南地区はその中心的な場所であった。しかし平成19年9月の大和百貨店の総曲輪フェリオへの移転後、跡地の未活用、空洞化の状況が続いたことから、賑わい再生のため市街地再開発事業の取組が進められている。

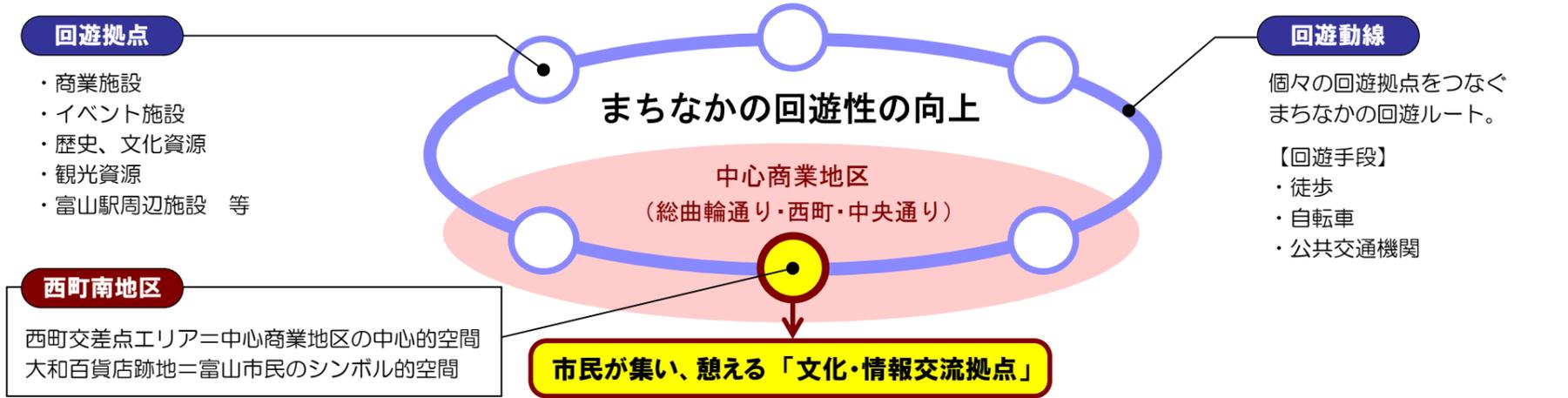


4 市民が集い・憩える「文化・情報交流拠点」としての公益施設のあり方

まちなかとの一体性の中で、「地域社会の文化的な発展」に貢献し、将来にわたり市民に親しまれる施設となることで、「コンパクトなまちづくり」に寄与することをめざす。

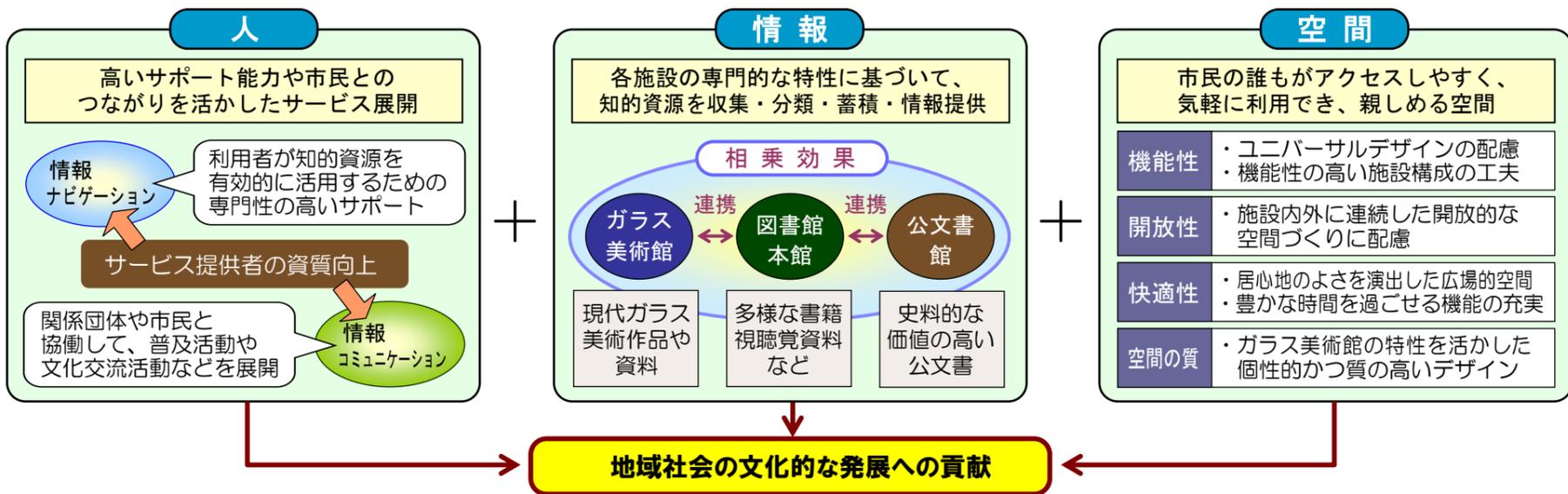
(1) まちなかとの一体性の追求

- 周辺の施設との機能分担や連携を図り、地域の面的な回遊性の向上を図る。
- 当地区が富山市民のシンボリックな場所であることを活かす。
- そこで、市民が集い、憩える「文化・情報交流拠点」の整備をめざす。



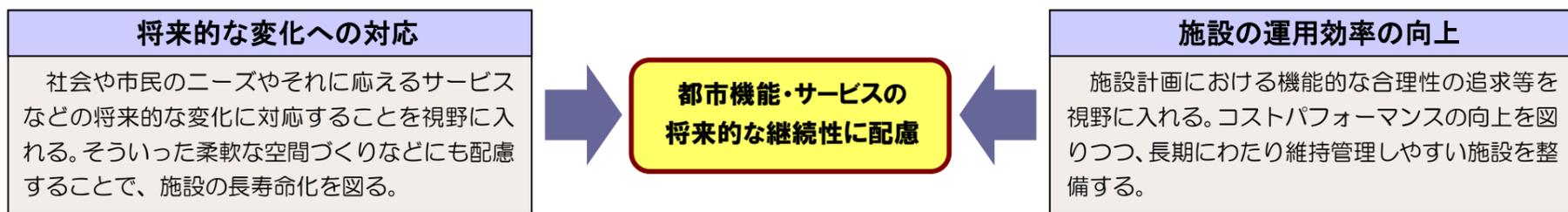
(2) 地域社会の文化的な発展への貢献

- 文化・情報交流拠点の形成に向けて「人・情報・空間」各々の要素を高める。
- 高いサポート能力や市民とのつながりを活かしたサービス展開、知的資源の蓄積・提供力、誰もが気軽に憩える空間の充実を図る。
- これらにより、集客力の向上を図り、地域社会の文化的な発展への貢献をめざす。



(3) 将来的な継続性への配慮

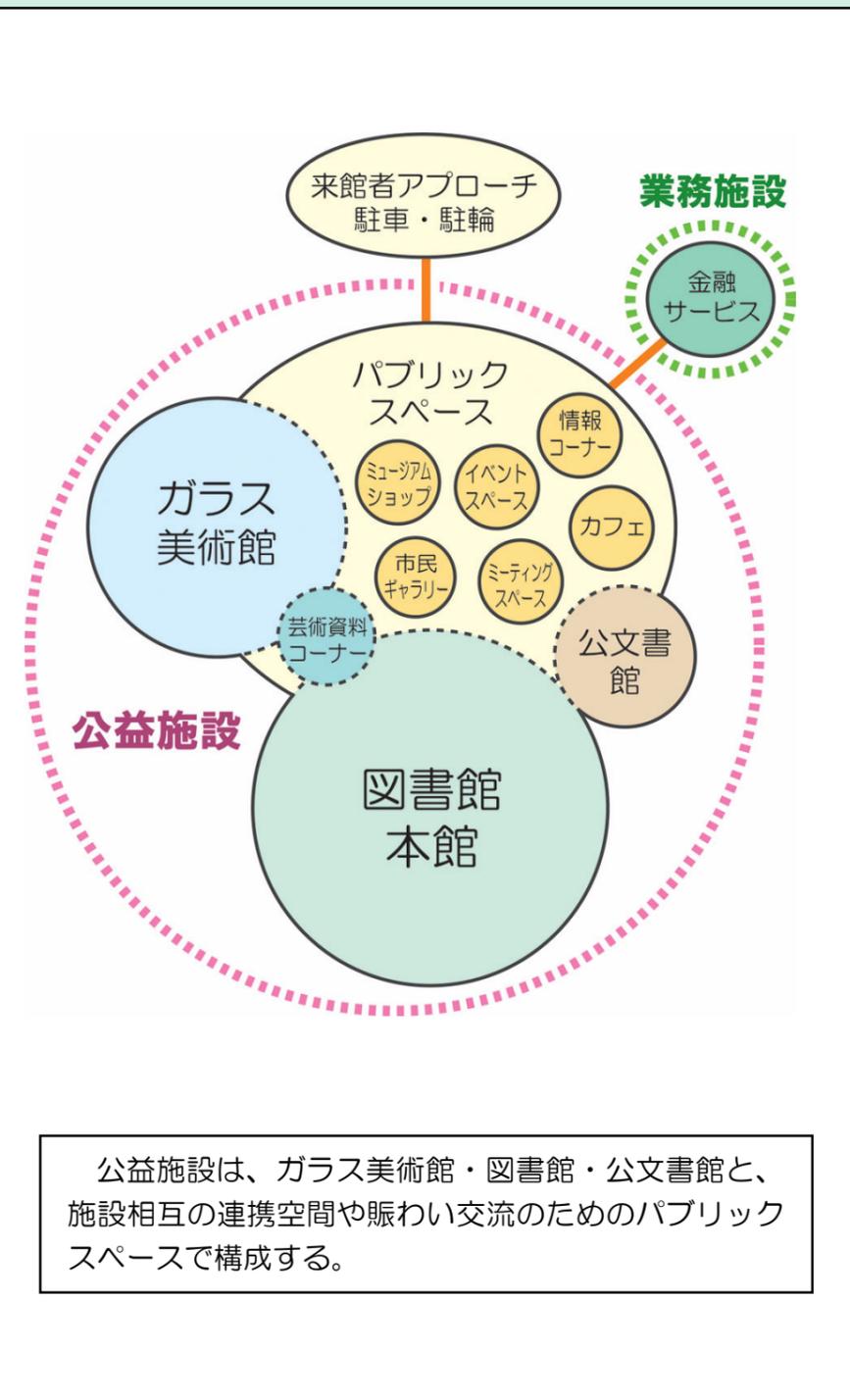
- 将来的なニーズの変化への対応や、施設の運用効率の向上に配慮する。
- それにより、都市機能・サービスを将来にわたって継続していくことをめざす。



5 公益施設の整備における基本方針

それぞれの施設が魅力的なサービスを提供し、市民が気軽に集い、憩える施設を整備する。

(1) 複合施設の機能構成イメージ



(2) 各公益施設の整備における基本方針

ガラス美術館	図書館本館	公文書館
<p>■ 現代ガラス芸術が主体</p> <p>現代ガラス芸術を中心に作品収集・研究・展示の柱として、専門館としての地位を確立するとともに、「ガラスの里」のPR、誘導に努める。</p> <p>■ 現代の多様な芸術を紹介</p> <p>ガラスをはじめとする現代の工芸や、館の視点を通じた多様な現代芸術を、企画展などで随時紹介し、多くの美術鑑賞者の期待に応える。</p> <p>■ 学術研究面で創作活動を支援</p> <p>ガラス関係や現代芸術全般にわたる各種資料を集積、公開することにより、学習の拠り所としての役割を果たしながら、芸術全体の発展を学術研究面から支援する。</p> <p>■ 市民文化の拠点を形成</p> <p>作品解説会や講演会などを通じて、市民が学び、親しみ、楽しみ、憩う場としての開かれた活動を展開する。</p>	<p>■ 地域を支える情報基盤を形成</p> <p>図書館サービスを効率的に機能させながら、積極的な情報提供に努める。一方で、高度情報社会に対応した、電子媒体によるサービスも可能な図書館になることをめざす。</p> <p>■ 生涯学習・読書の拠点を形成</p> <p>市民の誰もが自主的に学習し、生涯を通じて読書を楽しむ環境を提供するため、入りやすく、憩えるような施設・機能・雰囲気づくりに努める。</p> <p>■ 知的資産の保存庫を形成</p> <p>蓄積した幅広い分野にわたる資料を市全域の図書館網で活用できるよう、計画的・効率的に保存できる機能と容量を備えた施設として整備する。</p> <p>■ 賑わいの拠点を形成</p> <p>ガラス美術館等との連携を図り、また、富山に根ざした分野の資料の積極的な収集・提供により、図書館としての魅力を高める。</p>	<p>■ 公文書の体系的な管理</p> <p>歴史的資料として重要な価値を有する公文書の散逸を防止し、公文書の体系的な収集・選別・整理・保存を行う。</p> <p>■ 情報提供の展開</p> <p>市民共有の記録として重要な価値を持つ公文書を幅広く市民の利用に供するため、閲覧サービスのほか、調査研究を進め、その成果に基づいた企画展示を実施するなど情報提供に努める。</p>

(※) 公文書館の整備については、今後、当地区の市街地再開発事業の計画が具体化する中で、整備方針の見直しを行う可能性がある。

(3) 相互の連携による魅力的・機能的な空間の整備

ガラスアートを活かした施設空間	ガラス文化の発信拠点にふさわしい、施設全体を通じて統一性のある、象徴的で魅力的な空間の形成に配慮する。
賑わい交流空間	市民が気軽に足を運び、くつろぎ、憩えるようなカフェやミュージアムショップを有する魅力的な屋内共用空間としての、パブリックスペースの設置に配慮する。その中で、市民が創作した芸術作品の発表の場としての市民ギャラリーや、情報交換の場としてのミーティングスペースの設置等にも配慮する。
公益施設連携空間	ガラス美術館と図書館本館が複合する特長を活かして、それぞれの相互連携によって、現代芸術などの図書を配した、芸術資料コーナーの設置に配慮する。また、会議室やバックヤードの管理の統一化を図るなど、施設機能・運営上の効率化に配慮する。

4 先進事例紹介

1. 富山市立図書館本館TOYAMAキラリ(富山県・富山市)
2. 瀬戸内市民図書館もみわ広場(岡山県・瀬戸内市)
3. 恩納村文化情報センター(沖縄県・恩納村)
4. みんなの森岐阜メディアコスモス(岐阜県・岐阜市)
5. 伊万里市民図書館(佐賀県・伊万里市)
6. 武雄市図書館(佐賀県・武雄市)
7. アイデア・ストア(イギリス・ロンドン)
8. ニューヨーク公共図書館(アメリカ・ニューヨーク)
9. 金沢21世紀美術館(石川県・金沢市)
10. 山口芸術情報センター(YCAM)(山口県・山口市)
11. 十和田市現代美術館(青森県・十和田市)
12. モマ PS1(アメリカ・ニューヨーク)
13. アルスエレクトロニカ・センター(オーストリア・リンツ)
14. 日本科学未来館(東京都・江東区)

本資料の見方

- 別府市の新図書館・美術館基本構想策定にあたり、参考資料として、国内外の図書館をはじめとする様々な種類のミュージアム先進事例を紹介
- 従来の施設づくりやあり方に止まらず、これからの施設に望まれる幅広い可能性や夢の機能・サービスについて議論できるきっかけとして活用する目的での利用を想定

富山市立図書館本館 TOYAMA キラリ

富山県富山市(2015年)

《ポイント》

◆ 図書館と美術館の融合

両施設をフロアごとに設置し、空間を分断するのではなく、垂直に向かい合わせになるよう設置することで、両施設の空間的・機能的融合を図る。両施設の職員は共同の事務室を利用し、相互の交流も図る。また、ガラス美術資料コレクションと、その資料は貸出手続きなしで自由に持ち出し可能。

◆ 適度な賑やかさと回遊性

仕切りを減らし、吹き抜けやガラスを効果的に取り入れ、ほどよい賑やかさを許容する空間デザイン。

図書館を訪れた人が少しだけ見える美術作品に興味を持ち、美術館を訪れたり、美術館を鑑賞中に調べ物をしたと思った人が、そのまま図書館に移動して調べ物ができる回遊性がある。



図書館と美術館の融合

市工芸品であるガラスを施設全体でふんだんに活用

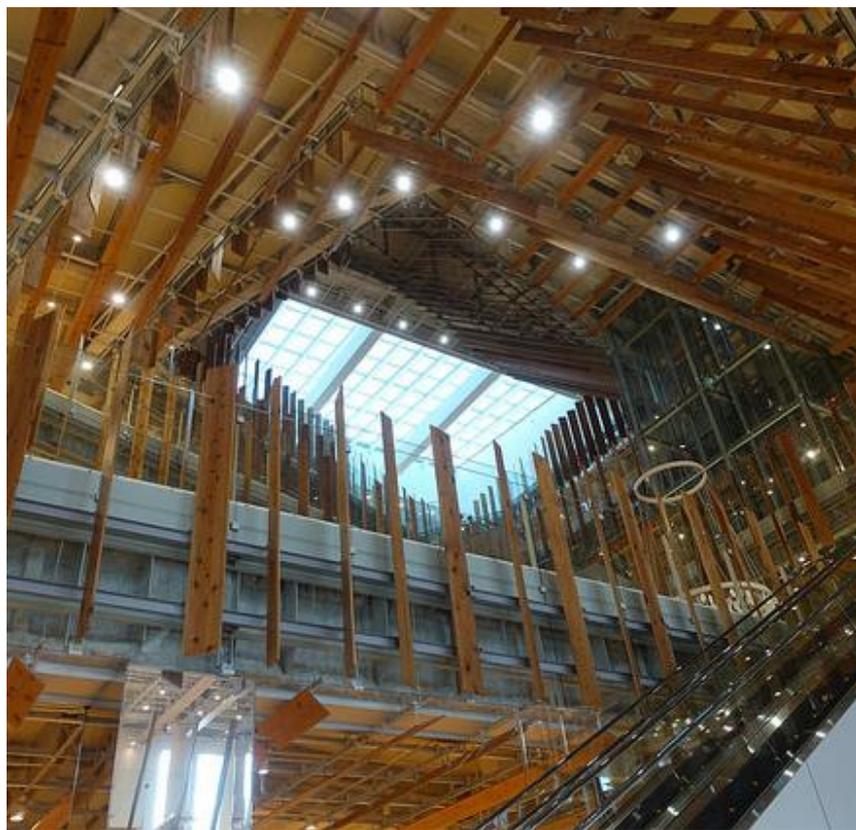


図書館にあるガラス美術資料コレクションは貸出
手続きなしで、美術館に持ち込むことができ
る

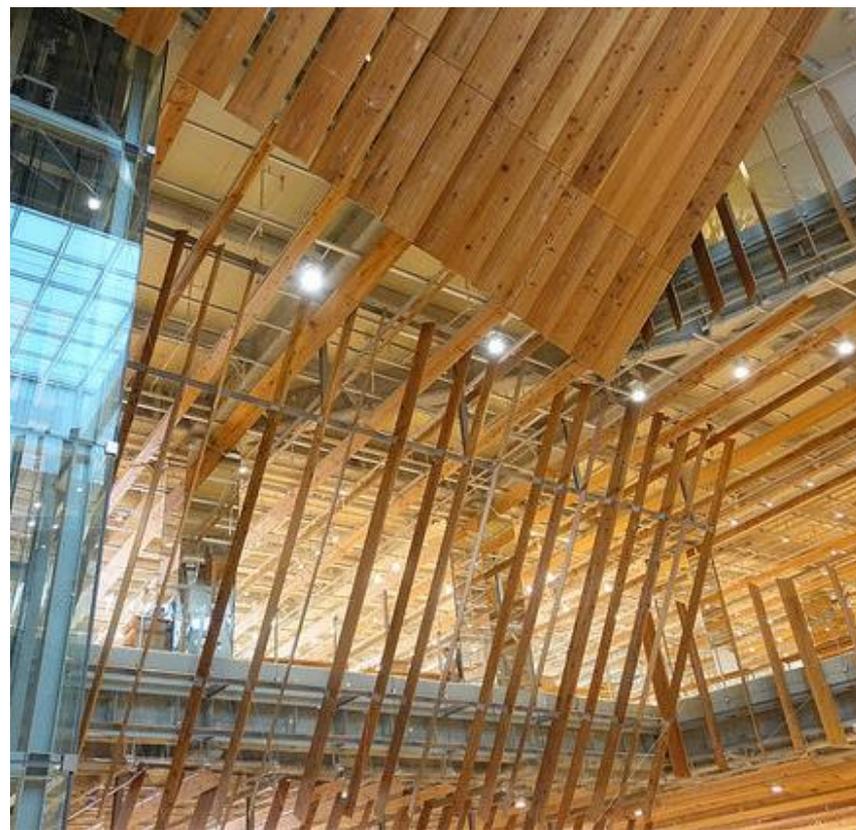


賑やかさと調和する空間デザイン

吹き抜けの天井空間



人の動きが見える仕切り



瀬戸内市民図書館 もみわ広場

岡山県瀬戸内市(2016年)

《ポイント》

◆ 郷土資料の融合設置

図書館内に郷土資料展示を融合させ、利用者の視界に入り知的好奇心を呼び起こす仕掛けづくり。図書館資料との一体的な展示により、広がりのある学習環境を提供。

◆ 高齢者施設巡回と回想法活用

高齢者施設向け移動図書館サービスと同時に、展示されている民俗資料(昔の生活用具など)を用いて高齢者の会話と記憶を引き出す心理療法「回想法」を活用。



(c瀬戸内市)

※利用写真はデジタルアーカイブ「せとうちデジタルフォトマップ」より。瀬戸内市が持つ指定文化財を中心に、地域のアーカイブ写真を収集。多くの先行事例と異なり、営利目的の利用も許可されている初のケース。

図書館と融合する郷土資料展示

床と融合する郷土資料展示



書架と融合する郷土資料展示

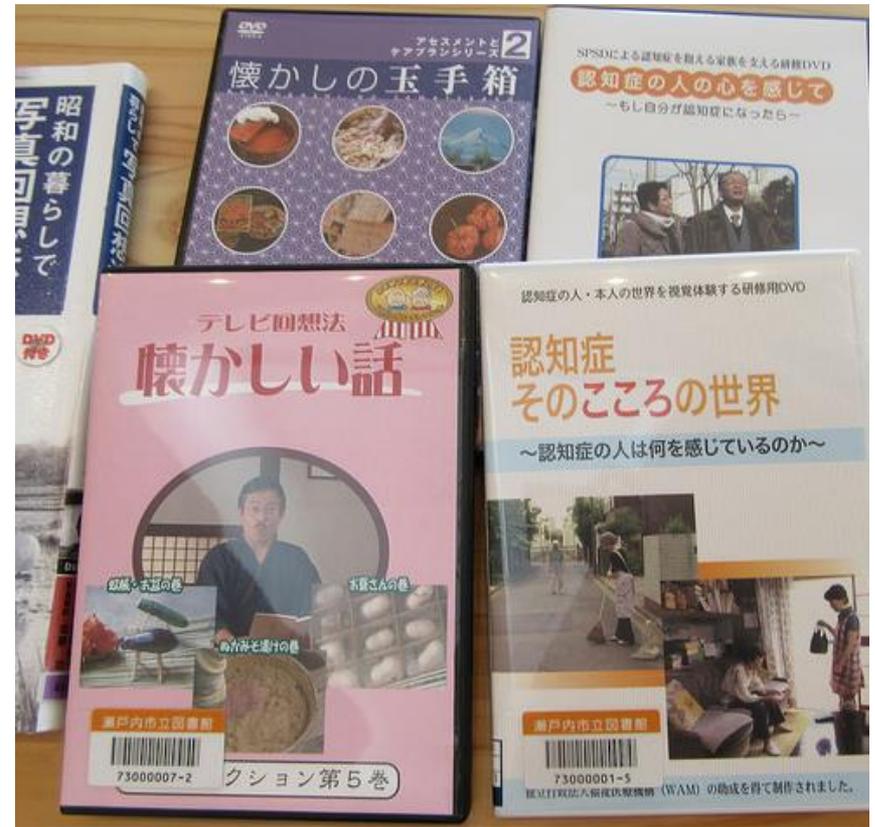


民俗資料と回想法

昔の日用品を展示し、記憶を引き出す仕掛け



回想法は、認知症予防として注目を集める



恩納村文化情報センター

沖縄県恩納村(2015年)

◆ 周辺観光情報発信の拠点

観光客がワンストップで観光情報を得られるよう、周辺のおすすめ観光地や年間の催事スケジュールまで収集・展示。

デジタルサイネージなどのICT設備も整備されたハイブリッドな情報環境。

◆ 周辺ホテルへの団体貸出

大型リゾートホテルが建ち並ぶ地域特性を活用し、ホテルへの団体貸出を実施。ホテル滞在時間の充実とともに、周辺観光情報の提供を図書館が支援。台風時にホテルから出られない旅行者から重宝されている。



地元観光業との連携

周辺の観光情報を収集・展示



リゾートホテルへの団体貸出



岐阜市立中央図書館 みんなの森 ぎふメディアコスモス

岐阜県岐阜市(2015年)

《ポイント》

◆ 市民に寄り添う滞在型図書館

ワンフロアが11エリア(グローブ)に分けられ、利用者の各利用スタイルに寄り添う空間づくり。

利用者はそれぞれの用途に応じて、居心地のよい場所を探して利用することが可能。

◆ ぎふまちライブラリーの実践

岐阜市内の店舗や寺院と連携した企画。店や寺を訪れた際に、各施設の担当者が選んだ本を自由に読んだり貸出できたりするサービス。

図書館が企画したまちライブラリーをめぐるツアーを実施。



居場所となる滞在型図書館

居心地の良い空間づくり



ぎふまちライブラリー参加者



この店舗で、12日、「まちライブラリー」が始まりました。
病院やお寺やカフェなど、まちかどに本棚を置いてみんなで共有す

(参考) <http://g-mediacosmos.jp/lib/information/2016/10/post-300.html>

伊万里市民図書館

佐賀県伊万里市(1993年)

《ポイント》

◆ 市民が支える図書館

設計段階から市民が携わり、官民一体となり市民にとって本当に必要な図書館について対話を重ね、市民が主役となる図書館づくりを実現。

図書館の誕生日である起工式の日には「めばえの日」として、市のイベントとなり、毎年多くの市民に祝われている。草刈りや大掃除なども市民が自主的に取り組む。

◆ 図書館フレンズいまり

図書館支援市民活動団体として、講演会の企画・実施やイベント開催を支援。図書館内に事務所が設けられ、密な連携を図る。

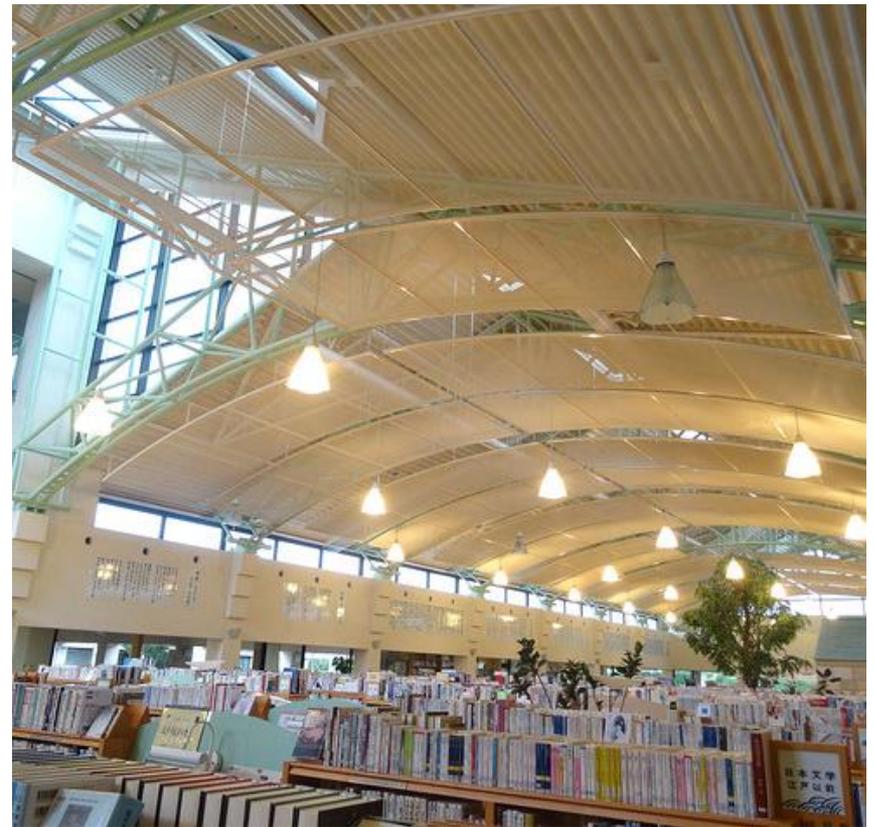


市民とまちを育てる図書館

図書館内に設置された図書館フレンズ
いまりの事務室



車椅子の人が本を取りやすいよう低
層書架を採用



武雄市図書館

佐賀県武雄市(2013年)

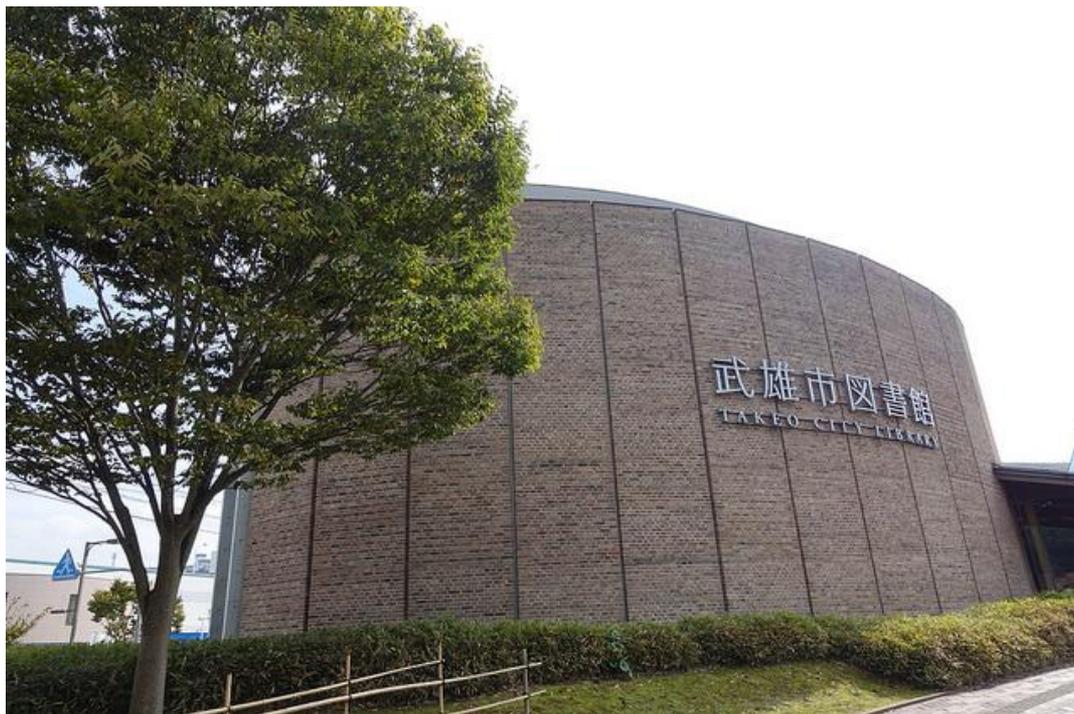
《ポイント》

◆ 本を売る図書館

レンタルビデオチェーンTSUTAYAや蔦屋書店を経営する企業「カルチュア・コンビニエンス・クラブ」(CCC)が指定管理者として運営する図書館。カフェチェーンのスターバックスや書店が出店し、コーヒーや本が購入可能。

◆ ICTによるサービス効率化

書架に直接取り付けられた検索機によって、探したい本をスムーズに検索可能。デジタルサイネージを活用した館内広告やマップの表示、セルフ貸出・返却機によってスムーズな利用を支える。



集客装置としての図書館

蔦屋書店の特徴でもある高層書架が立ち並ぶ館内



タッチパネル式の書架取付型検索機



アイデア・ストア・ ホワイトチャペル Idea Store Whitechapel

イギリス・ロンドン(2002)

《ポイント》

◆ 貧困地区のセーフティネット

移民と低所得者が多い東ロンドン地域において、住民が図書館に求める声を丁寧にヒアリング。

イギリスで安心・安全に暮らせるための情報提供と成人教育プログラムの充実による就労支援に取り組み、コミュニティハブとしての運用を目指す。

◆ 行政サービスのワンストップショップ

移住・ビザ・納税など移民住民がぶつかる行政サービスの壁を取り払うため、アイデア・ストアを窓口として行政担当者との引き合わせや直接相談ができるサービスを展開。



貧困地域のコミュニティ創出拠点

図書を組み合わせ、900を超える多様な学習プログラムを提供



行政サービス窓口にもなる
アイデア・ストア・ローカル



ニューヨーク公共図書館 The New York Public Library (NYLP)

アメリカ・ニューヨーク(1895年)

《ポイント》

◆ 知のインフラを支える

年間来館者数1,800万人は、アメリカ国内でも最大規模。英会話、プログラミング、音楽教室、アート、ヨガ、キャリア支援など、年間6万7千以上の無料講座を開講。市民の知識のインフラを整え、情報による課題解決を目指す。

◆ デジタルアーカイブとオープンアクセス

著作権の保護期間を経過し、パブリックドメインとなったもの(知的財産権が発生しないもしくは消滅したもの)のデータをデジタルアーカイブ化。民間の画像共有サービス・フリッカーを利用することで経費削減を図り、同時に世界中からのオープンアクセスを可能とする最大効果をあげている。

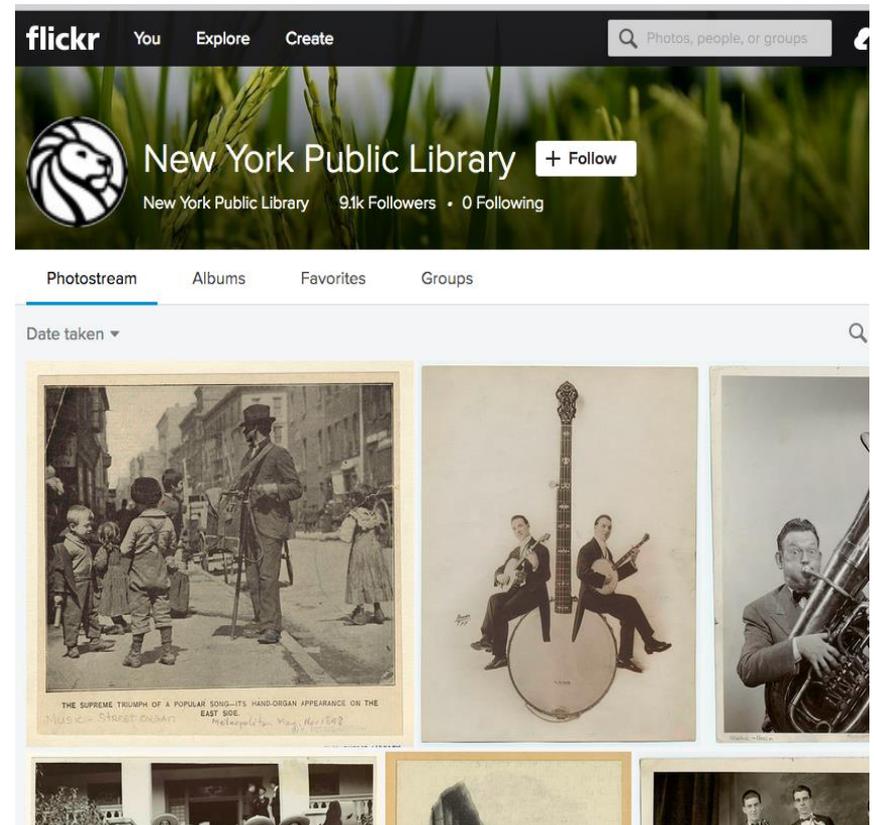


世界にひらかれる図書館

巨大なリーディングルームには
多様な利用者が集う



社会的ソフトウェア(民間サービス)を活用したデジタルアーカイブ



(参照) <https://www.flickr.com/photos/nyppl/>

金沢21世紀美術館

石川県金沢市(2004年)

《ポイント》

◆ 誰でも気軽に入れる美術館

金沢市内中心部に立地し、連日多くの人を訪れる。周辺には名庭園・兼六園や市役所があり、多方向から人の流れが生み出されるため、建築自体を丸い形状とし、どこからでも入ることのできる柔軟性を持つ。

◆ 参加型作品の展示

眺めるだけではなく、五感を使って楽しめる展示。美術館の外に設置された展示や無料で鑑賞できるスペースを多く確保することで、従来の美術館への入りづらさを軽減。身近にアートを感じることが可能。



人の流れに寄り添う図書館

周辺環境に溶け込む美術館



回遊性のある展示スペース



山口芸術情報センター (YCAM)

山口県山口市(200)

《ポイント》

◆ メディア・テクノロジーを伝える

メディアやテクノロジーを駆使した新しい形のアート表現を市民に提供。また、蓄積された新しい技術に関する知識や経験は、地元地域の課題解決のための資源とし、市民活動の基礎を支援。

◆ 体験型教育プログラムの提供

作品から派生した形でオリジナルワークショップを開発し、好奇心や創造性を刺激し、知ることへの探究心を育む多彩なプログラムを提供。特に子どもが体を動かし体験しながら遊びのなかで学べる仕掛けづくりが特徴的。



YCAMの活動

(参照)<http://www.ycam.jp/aboutus/>

メディア・テクノロジーと 市民をつなぐ場所

新しい学び(あそび)場の提供、遊び
を創造するための公園



教育プログラムの体験型展示(イン
スタレーション)



十和田市現代美術館

青森県十和田市(2008年)

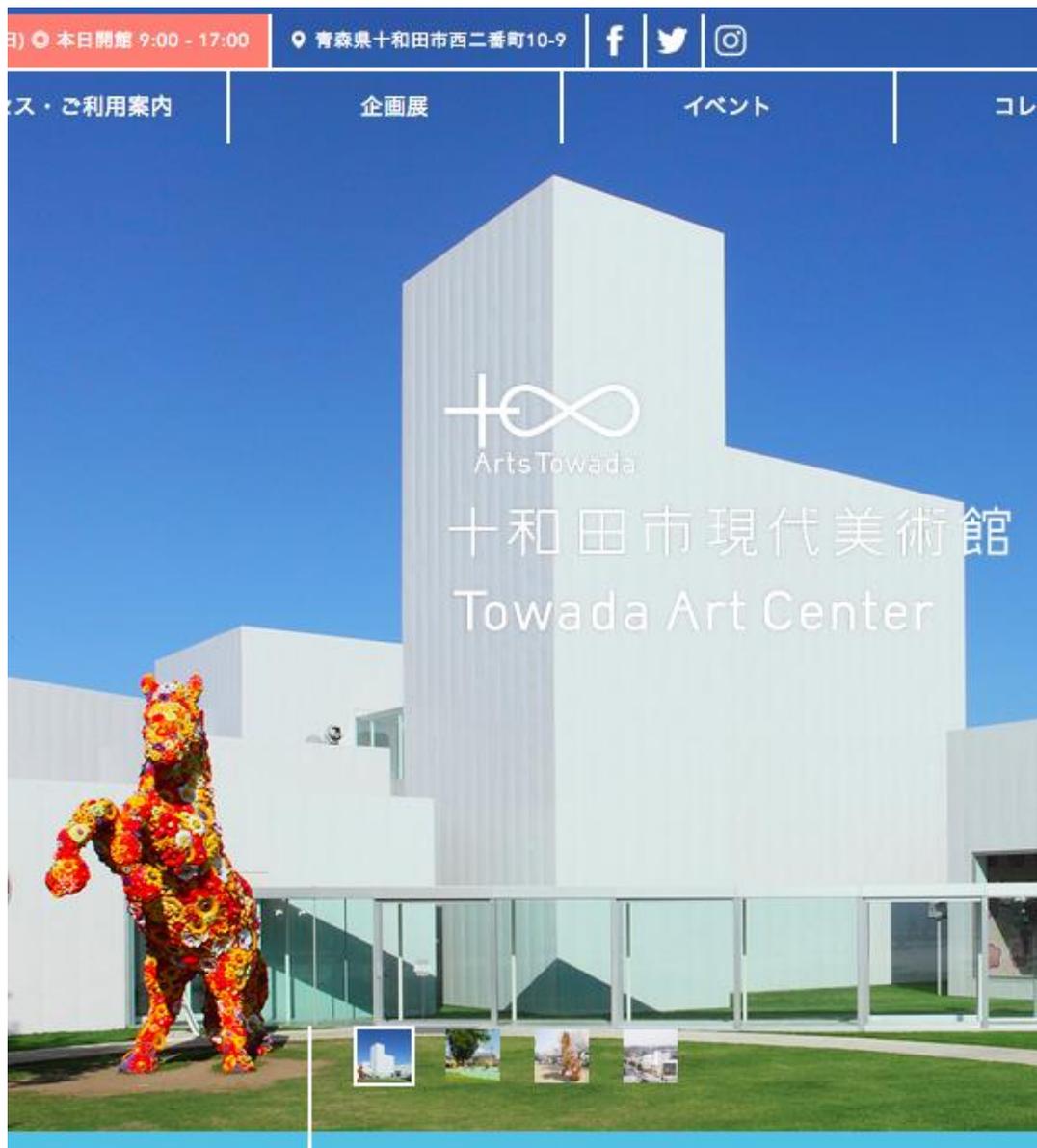
◆ まちにひらかれた美術館

市の主要道路に接した立地を活かし、通りがかりの人々が中の展示作品や館内で活動する人々の様子が見られるような仕掛け。作品そのものがまちに向かって展示されているように感じられ、通りがかる人々の関心を集める。

◆ まちなかで楽しめるアート

市の中心市街地に位置し、まちとの連続性を意識した施設づくり。道路を挟んだ向かいの公園内では、アート広場としてアート作品が無料展示され、気軽に作品と触れ合う場所作りが行われている。

美術館の中でも外でもアートが楽しめる工夫。



(参照)<http://towadaartcenter.com/>

アートを通じた新しい体験を提供

作品がまちに対して展示されている
ような仕掛け



(参照)<http://towadaartcenter.com/about/>

美術館内外でのアート観賞

> 常設作品 > アート広場 > ストリートファニチャー

アート広場



エヴェン・シェティア
ジャウメ・プレンサ



愛はとこしえ十和田でうたう
草間彌生

(参照)<http://towadaartcenter.com/collection/#art-square>

モマ PS1

The Museum of Modern Art PS1

アメリカ・ニューヨーク(1971年)

《ポイント》

◆ 空き家・空き地のアート活用

ニューヨークシティに点在する空き家や空き地へアーティストを招き、より実験的な創作活動を展開。

ジャンルに囚われない冒険的な活動によって、ユニークな建物や展示が生まれ、現代美術の発展に寄与。

◆ 常設コレクションを持たない

美術作品の収集ではなく、実験的な作品展示することが目標。新進気鋭のアーティストの活動を支えるべく、常設コレクションを持たず、展示に特化した運営方針。企画展だけではなく、音楽やダンスなどのパフォーマンスの企画も充実。

MoMA PS1

EXHIBITIONS

CALENDAR

PROGRAMS

ABOUT

SUPPORT

VISIT

Support MoMA PS1



MoMA PS1 is a nonprofit organization that relies on a variety of funding sources for

(参照) <http://www.momaps1.org/support>

展示空間としてのあり方を重視

常設コレクションは持たず、実験的な
企画展示を数多く目指す

EXHIBITIONS CALENDAR PROGRAMS ABOUT SUPPOF



Projects 103: Thea Djordjadze

(参照) <http://momaps1.org/exhibitions/view/404>

音楽やダンスもアートパフォーマンス
として展示

EXHIBITIONS CALENDAR PROGRAMS ABOUT SUPP

CALENDAR



(参照) <http://momaps1.org/calendar>

アルスエレクトロニカ・センター

Ars Electronica Center

オーストリア・リンツ(1979)

◆ 芸術・先端技術・文化の祭典

メディアアート、デジタルアートにおける最も権威のあるフェスティバルの運営拠点。ミュージアム機能やラボ機能を有し、生物学・遺伝子工学・ロボット工学など近未来の科学技術をアートを通じて、具体的な体験をすることが可能。

◆ リアルとバーチャルを学ぶ

デジタル製品が生活のインフラとなった現代において、人間とロボットなど、リアルとバーチャルの新しい関係性を提案。子どもでも説明を必要とせず楽しめ、理解できるような作品を展示。

Home > Ars Electronica Center > About

ABOUT



Ars Electronica Center

VISITO

Open

Muse

News



Exhib

Progr

CENTE



(参照) <http://www.aec.at/about/en/>

近未来最新技術とアートの体験

人間と新技術の関係性を学ぶ

ROBOLAB 2009

The term "Robotinity" describes the convergence of "Robotics" and "Humanity" and provides the central theme of RoboLab. Exemplary contributions from the spheres of art, design and research demonstrate how robots and humans already live together and interact in today's world. Exciting facts hint at chances and risks of our common future.



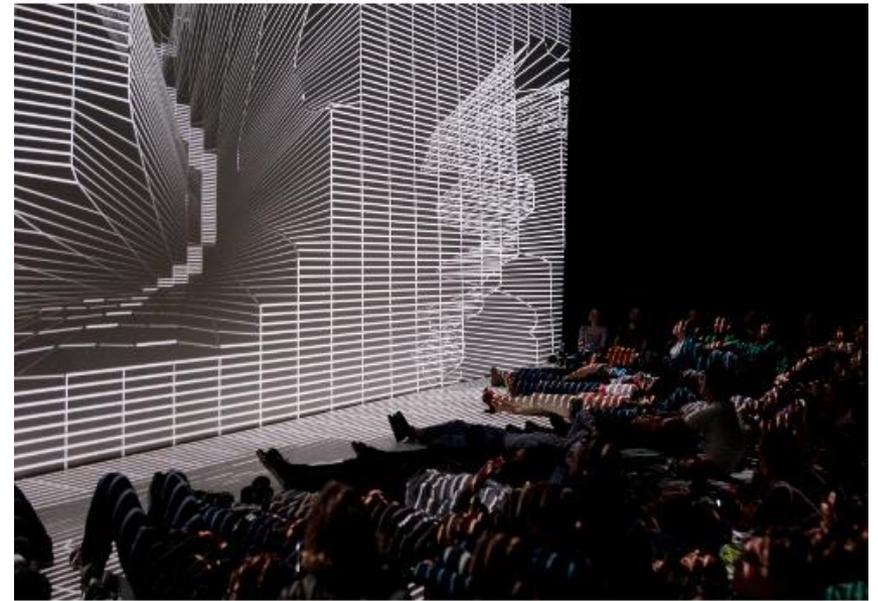
Diversifying the RoboLab. Foto: Ars Electronica Futurelab

(参照) <http://www.aec.at/futurelab/en/project/robolab/>

メディアを通じた新芸術体験

ronica Center > Exhibitions > Deep Space: Media Art

SPACE: MEDIA ART



o-format wall & floor projections and built-in laser tracking system, Deep Space

(参照) <http://www.aec.at/center/en/ausstellungen/deep-space-medienkunst/>

日本未来科学館

東京都江東区(2001年)

《ポイント》

◆ 先端科学技術と研究データ公開

高解像度で宇宙に浮かぶ地球を映し出す世界初のディスプレイ展示を通じて、宇宙から見た地球を学ぶ。また、国内外の最新地球観測データに自由にアクセスし、地球スケールの情報にふれることが可能。

◆ 科学コミュニケーターの育成

科学技術者と一般利用者の間をつなげ、科学と社会の間の双方向コミュニケーションを創出。最長5年の任期制職員として採用され、展示フロアでの解説やイベント、展示企画、化学情報発信や他組織とのネットワークづくりに従事する。

とを科
な未来
です。

ど多彩
新テク
思議ま
支術を



(参照) <http://www.miraikan.jst.go.jp/aboutus/>

最新科学技術を伝える

地球とのつながりを意識できる先端技術を駆使した展示



(参照) <http://www.miraikan.jst.go.jp/activity/tsunagari.html>

科学と人々の間をつなぐ、科学コミュニケーター



(参照) <http://www.miraikan.jst.go.jp/online/communication/work.html>

5 別府市における美術館(博物館)のあり方について【審議】

別府市立図書館及び別府市美術館整備基本計画検討委員会

【検討資料】 別府市における図書館・美術館のあり方

2016年12月13日（火）

■あらためて図書館とは、美術館とは

	図書館	美術館（博物館）
施設の目的	社会教育施設 ※社会教育法 第9条 図書館及び博物館は、社会教育のための機関とする。	
法による定義	<p>図書館法 第2条 この法律において「図書館」とは、図書、記録その他必要な資料を収集し、整理し、保存して、一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的とする施設で、地方公共団体、日本赤十字社又は一般社団法人若しくは一般財団法人が設置するもの（学校に附属する図書館又は図書室を除く。）をいう。</p>	<p>博物館法 第2条 この法律において「博物館」とは、歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管（育成を含む。以下同じ。）し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせてこれらの資料に関する調査研究をすることを目的とする機関（後略）</p>
扱う資料	図書・記録・その他	（歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する） 物的資料
アクティビティ	文化・情報へのアクセスを保障する	モノを通じての創造体験を提供する
ビジョン	世界を知る・識る 想像力を育む	世界を問い直す 創造力を育む

1. 教育（学習）・ひとづくり

- ・ 大人も子どもも誰もがいつでも学べる
- ・ 学校ではできない創造性の教育・学習
- ・ まぜる教育（APU）の拡張
- ・ 子育て環境の支援

2. 観光・温泉

- ・ どこでも、だれでも観光情報を得られる
- ・ 観光産業、温泉産業を学ぶことができる
- ・ 滞在型施設（アーティスト・イン・レジデンス、ライター・イン・レジデンス）

3. 経済・産業支援

- ・ 伝統工芸（竹細工等）を学ぶ
- ・ 創造経済・創造産業への支援
- ・ 公民学連携によるシビックエコノミー（市民活動を通じて社会貢献を行いながら経済活動を両立させる「市民参加型社会」）の創出

4. まちづくり・コミュニティ形成

- ・ まちに開けた、まちとつながる施設へ
- ・ 路地を活かした商店街の再生
- ・ 社会関係資本（他人に対して抱く「信頼」、「お互い様」といったような「互酬性の規範」、人や組織の間の「ネットワーク（絆）」）の構築

5. 歴史の継承・未来創造

- ・ 博物館的資料による学習プログラムの継続
- ・ 地域資料（物的、図書、記録、オーラルヒストリー）の集積・保存
- ・ まちの歴史の可視化・物語化

6. 社会的包摂

- ・ すべての人びとを社会の構成員として包み支え合う
- ・ 人びとが社会参加できるためのデザイン（インクルーシブデザイン・参加型デザイン）の導入

■新しい図書館・美術館の役割（機能・サービス）マップ



基本的役割



期待される役割

